

## 研修会報告

「印中国境紛争とその日米経済へのインプリケーション」 11月6日(金)

講演: Hudson Institute 長尾 賢 博士

研修担当理事: 入戸野 匡彦

11月6日(金)、ワシントン DC 日本人商工会は Hudson Institute の長尾博士をお招きし、ウェビナー「印中国境紛争とその日米経済へのインプリケーション」を開催しました。当日は約 40 名もの方にご参加いただき、熱心な質疑応答が繰り広げられました。

長尾博士は、ワシントン DC の Hudson Institute の Visiting Fellow を務められるほか、日本国内では未来工学研究所、学習院大学東洋文化研究所、日本戦略研究フォーラム、日本安全保障戦略研究所、海外ではスリランカ国家安全保障研究所 (INSSSL)、インディアン・ミリタリー・レビュー (IMR) の上級研究員も務められています。また昨年 12 月に Hudson Institute が発効した“Strategies for the Indo-Pacific: Perceptions of the US and Like-Minded Countries”のエディターを務められています。

1962 年に発生した中印国境紛争以降、インドと中華人民共和国は約 4,000km の国境で断続的な対立を続けてきましたが、2020 年 6 月の中印両国軍による殴り合いで死者が多数でたことをきっかけに一気にエスカレーションし、両国政府は国内世論/海外世論を見ながら慎重に状況をコントロールしています。今回の講演ではインドの軍事戦略の専門家である長尾博士により、印中国境紛争の経緯、最新の状況、今後の見込みについてお話しいただくとともに、世界情勢(特に日米経済)に及ぼす影響についてお話しいただきました。

場所によっては標高 5,000m 以上の高山地帯も含まれ、なかなかイメージできない印中国境ですが、講演では豊富なビジュアル資料やビデオにより、リアルに何が起きているのかを知ることができました。アジア全域までを視野に入れたご考察では、印中国境紛争と尖閣諸島問題の類似性について触れられ、アジア地域のミリタリーバランスを考える上での Quad 参加各国の果たすべき役割、それぞれの国の思惑について、時折ユーモアをまじえて分かりやすくお話しいただきました。日米経済へのインプリケーションとしては、印中のデカップリングの進行、米国の対中政策の影響等についてお話しいただき、我々ビジネスマンにも大変参考になりました。講演に引き続き行われた質疑応答では、日印/日中関係への提言、尖閣諸島問題へのインプリケーション、印中国境の戦略的重要

性、Quad/印中問題のバランス、日本国内における地域専門家の在り方等の質問が寄せられ、長尾先生からはいずれも分かりやすくご回答をいただきました。

長尾博士には明るいお人柄でなかなかワシントン DC では伺えない貴重なお話しをお聞かせ頂きました。改めて感謝申し上げます。